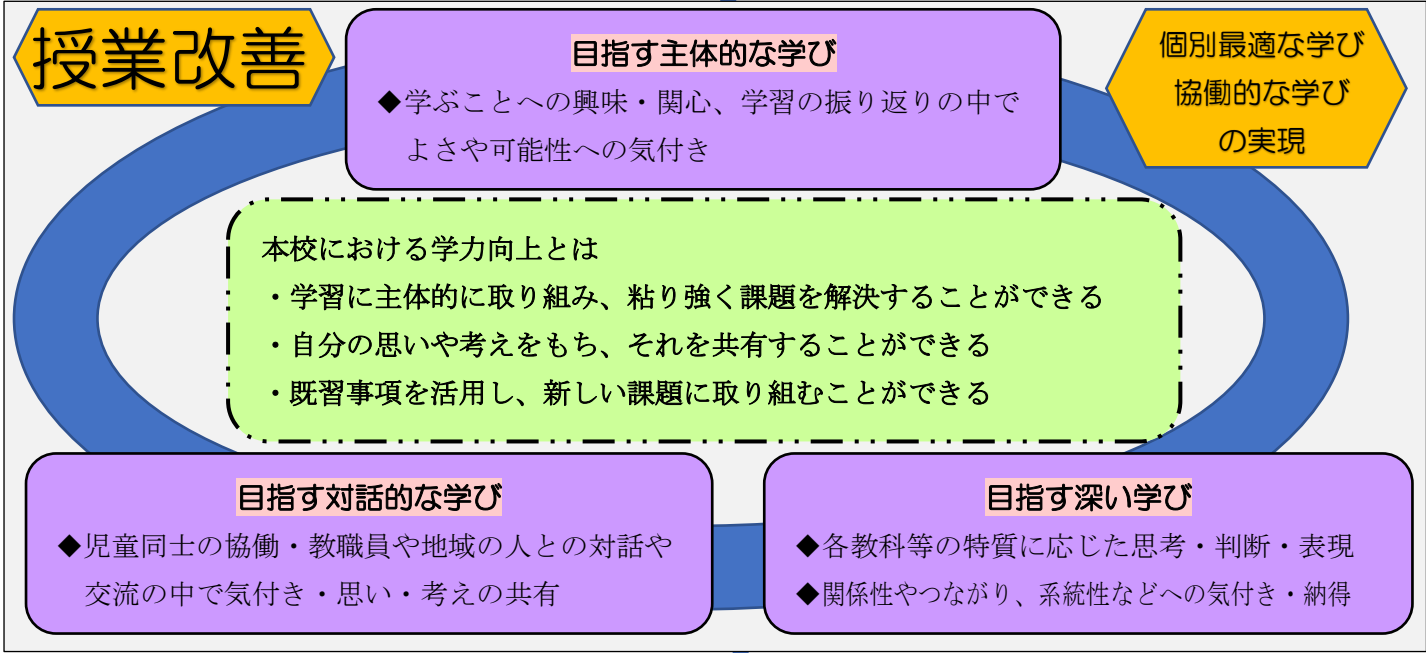
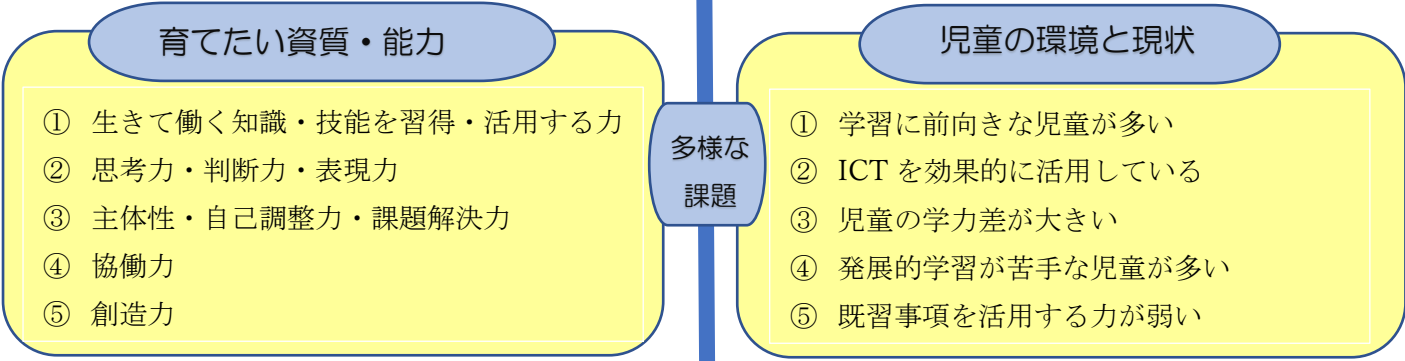


【学校教育目標】 助け合う子 考える子 きたえる子

【学校経営方針】 未来を生き抜き、未来を創る「たくましく」「しなやかな」共成っ子の育成
「学びがい」「やさしさ」「元気」を感じ「自分らしさ」を發揮できる学校



授業改善の視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	「学びに向かう力」を育むための工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業 ・基礎基本の確実な習得 ・ICT機器の効果的活用 ・言語活動充実 ・価値ある体験活動 ・対話の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の工夫(帯活動など) ・読書活動推進 ・朝の時間の有効活用 ・中学ブロック統一の授業スタンダード ・体験学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いや考えを言葉で表現する児童の育成」をテーマにした研究の充実 ・教員同士の積極的な授業公開・学び合い ・計画的な研修日の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化 ・授業内での評価の工夫、授業後の振り返りの充実 ・児童・教員の自己評価及び外部評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ボランティアなど地域の教育力の積極的活用 ・地域の施設や人々との交流や体験活動を積極的活用 ・全校統一での毎学期の家庭学習習慣 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を見通した授業づくり ・興味・関心を高める導入 ・自己選択・自己決定の場の設定 ・学習内容・方法・時間を児童自ら調整する場の設定

令和4年度 授業改善推進プラン各教科

昭島市立共成小学校

国語科

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの読み書きが苦手。 文章がすらすら読めない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の課題を用意して継続して練習する。 授業の中で音読の時間を確保する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力が乏しい。 自分の考えを表現することが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな言葉に触れる。意味を確認する。 感覚を言語化する機会を増やす。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書くことができない。 語彙力が低く、文章の意味を想像することが難しい児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指書きのソフトを活用し、児童の正しい漢字習得につなげていく。 言葉のイメージを広げられるように辞書やタブレットを活用したり、教科書の文言をよく読み込ませたりしていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに関して、表現の工夫、文章の構成、間違いを正す、読み手を意識すること等定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で確認できるように、掲示物を活用して意識させる。見本となる文を共有して参考にさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の要旨をとらえるのが難しい。 考えを言葉で伝えるのをためらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 要旨につながる表現を探す取組を増やす。 安心して発信できる場の設定を工夫する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 物語文全体を意識した読みに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文、説明文の学習と関連させ「はじめ」「中」「終わり」を意識した文章を書く機会を多くする。 自分や友達の考えを表などにまとめ、整理できる思考ツールを活用する。

算数科

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の意味が理解できない。 考え方を説明できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を使った操作活動を増やす。 自分の考えを書く活動を増やす。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の意味が理解できない。 自分の考えを友達に説明できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や多様な例を示しながら意味の理解を深めさせる。 図や式、言葉で考えを書く機会を作る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 計算などの単純な学習には意欲的に取り組むが、そのやり方の理由(例:筆算の仕組みや10倍の計算で0を一桁増やす理由)を知り、それを生かしたり、考えたりすることには消極的である。 じっくり思考する習慣が少なく、理解する力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し、考えさせる授業の実施と、ノートに考えを書いたり、考えを話したりする活動を今後も積極的に取り入れる。 学力の段階に合わせた授業の展開により、どの児童も「できた、わかった」の感覚を増やす。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程や結果を考察し説明する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアや小集団の中で必ずアウトプットする機会を設定することで、説明することに慣れさせ自分に不足している部分を補わせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 割合の問題の立式が苦手である。 自力解決のねばりに欠ける児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数量や多様な例を使って考えさせる。 スモールステップを意識して指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な問題を解く技能は身に付いているが発展的な問題解決には課題がある。 文章題で場面を正しく読み取れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 段階や習熟に応じて発展的な問題や問題作りに取り組ませていく。 必要な情報を読み取る活動を増やしていく。

社会科

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
3年	・生活経験が乏しく、実体験と結び付けるのが難しい。	・タブレットを活用し、映像を見せたりグーグルアースで昭島市の様子を調べたりして、視覚的に事象を捉えられるようにする。
4年	・資料等から情報を読み取る、考えたことを表現する力が足りない。	・情報から何を読み取るか視点を与える。表現する際に見本を示すことで参考にさせる。
5年	・地理的な感覚が育っていない。 ・学習課題を考える際、教師主導になる。	・ICTを活用して繰り返し地図に触れさせる。 ・考えを深められる資料を用意して思考を促す。
6年	・歴史への関心が高いが知識の定着に差がある。 ・資料に対して、多角的な視点から資料を読み取れるようになってきたがそれを表出するのは苦手である。	・繰り返し知識を確認する学習では、くじらーニングなどのICT機器を活用する。 ・資料から分かったことを交流する場を増やす。

理科

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
3年	・実験の結果からわかることと実験の結果の違いを理解できている児童が少ない。	・毎実験、観察ごとに、結果とそこからわかることの違いを意識させる。 ・実験のねらいを明確にさせて授業を展開する。
4年	・実験結果から考察し、表現することが苦手。	・表現の仕方について見本となる児童を紹介し全体で共有する。
5年	・実験器具の使い方の理解が浅い。 ・実験計画の段階の条件制御の理解が浅い。	・経験を積んで器具の使い方に慣れさせる。 ・様々な単元で条件制御を意識して学習させる。
6年	・自分の経験に結び付けて考えるのが苦手。 ・結果と予想を比較して考察する力が低い。	・視覚化する工夫をして、表現する時間を確保する。 ・観察や実験結果、また結果と予想を比較した考察の時間を確保する。

生活科

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
1年	・動植物と接したり、遊んだりする経験が少ない。(気づく、繰り返し試す等)	・動植物と接する活動を増やし、五感を使い、繰り返し関わる場を設定し、気づきを増やす。
2年	・観察力、表現力がもう少し。 ・感染症対策で人との関わりが少ない。	・ものの見方や表現をいろいろ提示する。 ・他学年や地域の方々との関わりを増やす。

総合的な学習の時間

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
3年	・調べたことをどのように発表すれば良いか、学ぶ必要がある。	・発表に向けて必要なパソコンスキルや発表形式など、児童が知らないこと、行ったことのないことがあるので、授業を通して一つ一つ体験させていく。
4年	・探究的な見方、考え方に苦手さを感じている児童がいる。	・各教科で学習した見方、考え方をどのように活用できるか共有する時間を設定する。探究的な学習を繰り返し行うことができるように時間を確保する。
5年	・まとめ学習に自分の意見が少ない。 ・活動する際、目的意識が薄れやすい。	・調べることに終始せず自分の考えをもたせる。 ・活動の目的に立ち返りつつ指導を進める。
6年	・調べたことを理解し切れていない。 ・課題を見付けることが苦手。	・自分の言葉で表現する場を増やしアウトプットすることでより深い理解につなげる。 ・視覚的に課題を見せたり、意見交流の場を増やしたりして興味関心を深めていく。

体育科

学年	授業における課題 (児童の実態・指導上の課題)	具体的な授業改善策
1年	・基礎的な体力が低い。 ・自分の体の動きを調整する力が弱い。	・体育の時間の中で運動量を確保する。 ・授業の最初にいろいろな動きを入れる。
2年	・上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50m走が平均以下	・コーディネーショントレーニングなどを活用し、繰り返し指導し、運動量を増やす。
3年	・体を動かすことは好きな児童が多いが体力の向上に結び付いていない。 ・楽しく活動しているが、基本的な運動能力がとても低い。	・基本的な運動を、授業の初めに計画的に取り入れ、児童の変化を教員も児童自身も感じ取れるようにしていく。 ・授業時間以外にも体を動かす活動を促す。
4年	・体力テストの結果より、大体の種目で東京都平均よりも数値が低い。	・身に付けたい力について、授業の初めに帯で繰り返し取り組む。運動の特性について知識として理解する時間を設定する。
5年	・ゲームが好きで運動が苦手な児童が多い。 ・持久力・瞬発力がない。	・体を動かすことの楽しさが使われる工夫をする。 ・帯活動で苦手な領域の活動を増やす。
6年	・反復横跳び、立ち幅跳びに課題がある。 ・ボール運動に対して苦手意識がある。	・めあてをもって体づくり運動に取り組めるように授業を工夫していく。 ・場の設定を工夫し、スモールステップで達成感をもたせるようにする。